

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 009	提案機関名 よこすか葉山農業協同組合経済部営農販売課
要望問題名 加工用キャベツ品種検討について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 加工向けの寒玉キャベツの栽培を大楠地区において取り組んでいるが、出荷量のごくわずかにとどまっている。市場、加工業者より4月～5月どりの寒玉がほしいという要望は年々高まってきており、この時期は安定した価格が期待できる。数年前に県技術センターで品種比較試験を実施し、優良品種については現在大楠地区で導入し栽培されているが、もう少し早い時期に収穫できる品種（4～5月どり）について再度検討願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	三浦半島地区事務所研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 新たな作物・品種の探索による特産品の開発		
対応の内容等	<p>これまで当所では加工業務用キャベツの栽培技術に関する試験を実施しております。平成21年度には4、5月どりの寒玉系キャベツの有望品種の特性、密植多収栽培および収穫期の前進化について、試験研究成果を発表しており、5月どりの有望品種は‘かんろく’など4品種を、収穫期の前進化についてはPOフィルムを用いたトンネル栽培で約2週間、割繊維不織布のべたがけ栽培で約1週間前進化することを明らかにしました。</p> <p>一方、近年、種苗会社からは5月どり寒玉系キャベツの新品種が発表され、当所ではこれら新品種の特性等を明らかにしてきましたが、抽台等に問題がある収穫期の前進化に関する試験については行っていません。現在取り組んでいる課題は平成30年度で完了予定ですが、ご要望のあった4月中下旬の収穫に適する品種や栽培技術を検討するため、期間を延長して試験を実施します。</p>		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			